

第1学年 国語科授業実践

1 単元名 おもいうかべながら よもう 「くじらぐも」

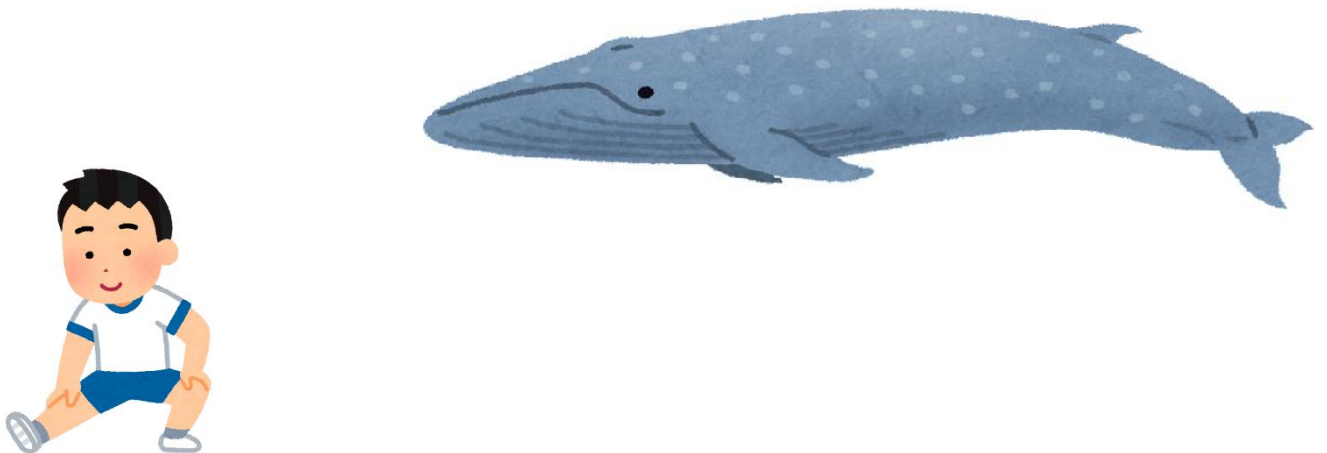
2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性等
・かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。	・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。	・これまでの学習を生かして積極的に想像力を広げて物語を読み、想像したことを友達に伝えようとしている。

3 教材のとらえ

体育の授業時間という現実の中から、ふいと幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻る。物語開始の場面は身近で入りやすく、入ってみると一挙に想像の広がりや誘い込んでくれ、そしてまた、元通りの現実世界に戻してくれるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる物語である。物語の設定や場面の様子を押さえながら、自分だったらこんなことを言う、くじらぐもにのってこんなところにも行きたい、などと創造的に読み、互いの考えを伝え合うようにしたい。自分達と同じ1年生が大空を舞台にして活躍する内容は、共感しながら大いに楽しんで読むことができると考える。

くものくじらで旅をするという想像の場面で子ども達はさまざまな疑問をもつだろう。その答えを自分で想像することや友だちの想像したことを聞くことで、さらに場面を豊かに思いうかべることができる。叙述に基づいて考えることは指導するが、特にくじらぐもにのって空を旅する場面では、児童それぞれが想像できる幅が広く、どの子も安心して活動できるだろう。また、屋上から景色を見る・校外学習で見た景色など共通体験を元にした発言では、友だちの考えを理解しやすく、これも安心材料になるだろう。これらの活動を通して、自分の考えをもつ楽しさや友だちと学習することの楽しさ、自分の考えが広がる喜びを感じて欲しい。



4 本時の指導

本時の目標 「くじらぐも」の上でどんな会話をしているのか、考えて話し合うことができる」

本時の学習

学 習 活 動	教 師 の 支 援
1. これまでの学習を振り返る。 2. 今日のめあてを確認する。	○掲示物なども見ながら内容を振り返る。 ・音読を発表することを確認する。
みんなが思いうかべたことを入れて楽しいお話にしよう（空の旅編）	
3. 今日学習する場면을音読する。 4. 子ども達になってくじらぐもの上で話したことを思いうかべて話し合う。 ・雲の上はふわふわだね。 ・あっちに私の家が見えるよ。→学校の近くなら見えると思う。 ・学校があんなに小さいよ。→諏訪の原公園から見えた学校も小さかったから。 ・歌を歌ったって書いてあるよ。空で歌を歌ったら、気持ちがいいんじゃない。私たちなら何を歌おうか。 ・海が見えるよ、きれいだね。魚も見えるかな。 ・くじらぐもさん、山の方まで連れて行ってよ。→うみとむらとまちは行ったみたいだから。 ・もっと早く進んでよ。 5. 友だちの考えを聞いて、再度付け足したい言葉を決める。 数名の児童の発表を聞く。 ・空で歌を歌ったら、気持ちがいいんじゃない。→歌のことが書いてあったから。 ・海が見えるよ、きれいだね。→あおむしさんみたいな気持ちになると思う。 ・くじらぐもさん、山の方まで連れて行ってよ。→山の景色もきれいだから。 ・竜巻みたいに強い風でくじらに乗ったね。→風のこと知りたかったから、考えてみたよ。 6. 学習の振り返りをする。 振り返りシートに書く。	・叙述を元に考えるように助言する。 ・屋上や校外学習で見た町の様子を思い出して考えるように助言する。 ・隣の席の子やグループ内で伝えてから全体で伝え合う ・聞いた友だちの考えを紹介してもよいことを伝える。 【思考・判断・表現】 ・場面の様子や登場人物の行動から想像を膨らませている。 ・叙述や経験をもとに想像し、自分の考えをもっている。 ・友だちの考えをきいて分かったことや参考になった意見などを振り返る。 ・自分の考えの変容を意識できるようにするなど、「高め合った」ことを価値づける。